

PRESS RELEASE

環境問題と住宅 (Vol. 3-2)

～ 消費者意識の類型化とその特性分析 ～

(株)長谷工総合研究所(東京都港区、社長：相川 博)では、表題のレポートをまとめました。
レポートの全文は、8月25日(水)発行の「C R I」9月号に掲載いたします。

(株)長谷工総合研究所では、財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団と共同で2009年1月に実施した「環境問題に対する消費者の意識に関するアンケート調査」の分析結果を2009年6月号、同12月号、2010年7月号で紹介しています。2010年7月号では、「環境問題に対する関心度」、「環境問題への取り組みの実践度」、「環境に配慮した住宅・設備への購入意向」を切り口に6つのタイプに類型化し、基本属性を中心に分析結果を紹介しましたが、今月号ではその続編として、各タイプの具体的な日常行動に対する関心度や具体的な活動内容、環境に配慮した住宅・設備に対する認知度、関心度などについての分析結果の一部をご紹介します。

【類型化の概要】

- 2009年1月に実施したアンケート調査をもとに「環境問題に対する関心度」、「環境問題への取り組みの実践度」、「環境に配慮した住宅・設備への購入意向」を切り口に類型化すると、(1)環境重視派、(2)環境スタイル派、(3)環境行動中心派、(4)環境志向派、(5)予備層①、(6)予備層②に類型化された。さらに環境に配慮した住宅・設備に対する需要層としてみると、(1)購入につながる可能性が高くターゲット層ともいえる「環境重視派」、(2)購入につながる可能性がある潜在需要といえる「環境スタイル派」「環境行動中心派」「環境志向派」、(3)購入につながる可能性が低いと考えられる「予備層①・②」の3つのグループに分かれる。
- 7月号では6つのタイプの「基本属性」を中心に分析結果を紹介したが、今月号では「環境重視派」と潜在需要層として注目すべき「環境行動中心派」を中心に、関心を持つ対象や具体的な活動内容、環境に配慮した住宅・設備に対する認知度、関心度などの分析結果をまとめた。

【分析結果】

- 環境に配慮した具体的な日常行動について、「環境重視派」と「環境行動中心派」が同程度に関心度・実践度が高い項目は、「ゴミの減量・分別の徹底」「節水行動」「冷暖房機器や照明等の節電」などといった日頃の努力によって実践が可能で、光熱費、水道代などの節約につながる項目となっている。
- また、「省エネ性能の高い家電の購入」「有機農産物、間伐材等の利用」など、実践には何かしらのコストがかかると思われる項目についても、「環境重視派」は関心度、実践度共に高くなっているが、「環境行動中心派」では、関心度は高いものの実践には至らない場合が多くなっている。
- 「環境問題への取り組みを実践している」理由を尋ねると、「光熱費の削減など家計の節約」が各タイプ共最も多く、特に、「環境重視派」と「環境行動中心派」では80%を超えている。
- 環境に配慮した住宅・設備について、関心度の高い順にみると、「住宅用太陽光発電」「断熱性能、気密性能向上」「太陽熱利用」の順となっている。また、「環境行動中心派」では、「節水型住宅設備機器」「太陽熱利用」「断熱性能、気密性能向上」「住宅用太陽光発電」など、主に光熱費の削減につながる項目に対する関心度が高くなっている。

【まとめ】

環境に配慮した住宅・設備に対する潜在需要層と考えられる「環境行動中心派」が関心はあるけれども実践していないのは、何らかのコストのかかる行動が中心で、この判断基準の差が「環境重視派」と「環境行動中心派」の違いを特徴づける特性の1つである。また、「環境行動中心派」の環境に配慮した住宅・設備へのニーズをみると、「節水型住宅設備機器」「太陽熱利用」「断熱性能、気密性能向上」「住宅用太陽光発電」など、主に光熱費の削減につながる項目に対する関心が高くなっている。逆に、商品化されて間もないものや積極的な情報収集が必要な項目に対しては、相対的に関心は低くなっており、積極的な情報提供が重要になると思われる。

【アンケート調査の概要】

- 調査対象：東京都内23区、大阪市、名古屋市、札幌市、福岡市、仙台市、金沢市、鹿児島市。左記8都市在住の20歳台から50歳台の持家戸建住宅居住者、分譲マンション居住者、賃貸住宅居住者。調査対象者の抽出に際しては、対象都市の居住者の年齢階層および居住している住宅の種類構成比に配慮した。
- 調査方法：WEB方式によるアンケート調査
- 調査期間：2009年1月9日～2009年1月14日
- 回収数：3,956件

